

第17回(令和5年度)

大泉町 小中学生 ふくし作文・ポスターコンクール

入賞作品集

《最優秀・優秀・優良》

《小学生低学年 ポスターの部》



最優秀

「人はみんなささえあい」



大泉町立東小学校

3年

みつもり るな
三ツ森瑠夏 さん

《小学生高学年 ポスターの部》



最優秀

「気づこう・助け合おう」



大泉町立西小学校

6年

ね ぎ し も と こ
根岸 素子 さん

《中学生 ポスターの部》



最優秀

「温かい恩返し」



大泉町立南中学校

え ぐ ろ な な み

2年 江黒 七望 さん

主催：大 泉 町 会
大 泉 町 教 育 委 員 会
大 泉 町 社 会 福 祉 協 議 会

《小学生低学年 ポスターの部》



優秀

「ずっといっしょ」

大泉町立西小学校

3年 いわせ もね 岩瀬 桃寧 さん

《小学生高学年 ポスターの部》



優秀

「思いやり・支え合い・
助け合い」

大泉町立南小学校

5年 しまやま るか 島山 瑠華 さん

《中学生 ポスターの部》



優秀

「小さい思いやりから
広げよう」

大泉町立北中学校

3年 こすぎ かりーな 小杉果璃奈 さん

はじめに

ボランティア活動やお年寄りの介護サービスなど社会福祉の推進が大きな課題となる中で、小・中学生が、家庭や学校、社会生活の中で福祉の大切さや将来の夢などについて考えたり共感したりと、心に残る出会いなどを内容とする作文やポスターを作成することにより、児童及び生徒の社会福祉に対する一層の理解と関心を高めるために、大泉町ふくし作文・ポスターコンクールを実施いたしました。

第十七回目の実施に当たり、町内小中学校七校より、小学生の作文五十一・ポスター六十点、中学生の作文百二十五点・ポスター百二点、合計で三百三十八点のご応募がありました。ご応募いただいた児童・生徒の皆様、応募にご協力いただきました先生方にはこの場をお借りしましてお礼申し上げます。今回の応募作品は審査委員会において厳正に審査し、十八点の入賞作品を決定いたしました。

各学校からご推薦いただいた作品はどれも素晴らしく、選定に大変悩みました。身近な家庭や実体験を題材にした作品が多く、学校教育の中で自然なたちで福祉教育がなされている様子を実感するとともに、家庭・地域においても小さな頃から福祉教育が浸透してきていることを心強く思う次第です。

感受性が豊かな時期にいろいろなものを見聞きしたり、体験したり、それを表現したりしていくことは福祉に限らず大切なことと思いますが、次回におきましても本コンクールへのたくさんのご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和五年十一月

大 泉 町

大泉町教育委員会

大泉町社会福祉協議会

令和五年度
大泉町小中学生ふくし作文・ポスターコンクール入賞者

《小学生低学年作文の部》

最優秀	松井優月	ふくしについて	西小学校3年
優秀	手塚恋羽	おばあちゃんとほちょうき	南小学校3年
優良	中本蒼菜	わたしのじいちゃん	東小学校3年

《小学生高学年作文の部》

最優秀	只野弥南	ボランティア活動を通して	東小学校6年
優秀	菊愛里紗	「ふくし」が教えてくれたこと	北小学校6年
優良	永島琉楓	日常生活で感動したこと	南小学校6年

《中学生作文の部》

最優秀	新島美桜	「理解する」とは	北中学校3年
優秀	横倉由唯	見た目だけではわからない障がい	北中学校1年
優良	平田しずく	高齢者の方のこと、分かって！	西中学校2年

《小学生低学年ポスターの部》

最優秀	三ツ森 瑠夏	人はみんなささえあい	東小学校 3年
優秀	岩瀬 桃寧	ずっといっしょ	西小学校 3年
優良	北 隆希	みんなもってる やさしいきもち	南小学校 1年

《小学生高学年ポスターの部》

最優秀	根岸 素子	気づこう・助け合おう	西小学校 6年
優秀	島山 瑠華	思いやり・支え合い・助け合い	南小学校 5年
優良	高木 結愛	みんなで支え合おう	西小学校 5年

《中学生ポスターの部》

最優秀	江黒 七望	温かい恩返し	南中学校 2年
優秀	小杉 果璃奈	小さい思いやりから広げよう	北中学校 3年
優良	佐藤 愛梨	支え合い笑顔をふやそう	西中学校 1年

最優秀

小学生低学年

作文の部

ふくし

西小学校3年 松井優月



わたしは、「ふくし」って何だろう
うと思い、国語じてんで調べてみま
した。じてんには、
「人びとが安心してくらせるかん
きょう」と書いてありました。わた
しは、おじいちゃんや、おばあちゃ
んといっしょに住んでいないし、コ
ロナでお年よりの人たちとかかわる
ということもなかったので、ふくし
について、考えてみようと思いまし
た。

わたしのりよう親は、ふくししせ
つではたらいっているそうです。そこ
には、体がふ自由に車いすの人や、
歩いたり是可以るけど、おふろや食
事を一人するのが大へんな人など、
いろいろな人が生活をしているそう
です。わたしはお母さんに、
「ふくしって何。できないことをやっ
てあげるの。」
と聞きました。お母さんは、
「むずかしいね。やってあげるんじや
ないんだよ。本当はその人が自分で
やりたいけど、できないぶんをお手
つだいさせてもらうの。」
と言いました。
「大へんなの。」
とわたしが聞くと、お母さんは
「大へんなことももちろんあるけど、
楽しいよ。長い時間いっしょにいら
と、家族みたいに、その人のことも
よくわかって、その人の気持ちもわ
かるようになるの。コロナで家族と
会えない時はみんなかわいそうだっ
た。そのさびしさを少しでもかるく

したくて、いっぱいおしゃべりもし
たよ。ふくしって、相手を思いやる
気持ちが大事なんじゃないかな。お
母さんも上手にせつ明できないけど
ね。」

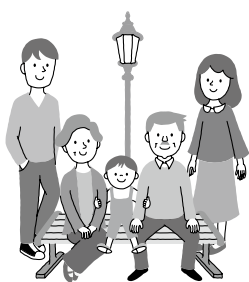
と言いました。少しだけ、ふくしが
わかったような気がしました。

わたしは、手話をやってみたく
ずっと思っています。手話は、目で
見てわかるように、手を動かしてす
る会話の方ほうです。わたしはきょ
うみがあつてやってみたくと思つて
いましたが、もしできるようになつ
たら、耳の聞こえない人ともお話し
ができるようになって、こまつてる
人のお手つだいができるようになる
かもしれない。それもふくしにな
るのかなと思いました。

わたしは、お休みの日に室内プー
ルに行くのが好きです。そこは、地
いきの人がプールやおふろに入り
きます。バスケットボールや運動を
しに来る人もいます。わたしはいっ
つもプールに行くので、いつも会うお

じさんやおばさんたちと話すように
もなりました。そこもふくししせつ
と知つて、とてもびっくりしました。
何となくふくしという言葉は、体が
ふ自由な人とかんけいがある言葉だ
と思つていたからです。

わたしはこの作文を書くまで、わ
たしとふくしは、あまりかんけいな
と思つていました。でも、考えて
いくうちに、すぐ自分と身近なも
のだとわかつてきました。体がふ自
由かどうかではなくて、国語じてん
に書いてあつた通り、「人びとが安
心してくらせるかんきょう」という
意味が、さいしょよりずっとよくわ
かることができました。作文を通し
て、ふくしについて考えることがで
きてよかったです。これからふく
しについて、わたしなりに考えてい
こうと思います。



秀 優

小学生低学年

作文の部

おばあちゃんとほちようき

南小学校3年 手塚恋羽^{てづかこほ}



わたしのおばあちゃんは、今71さいです。大きなびよう氣をしたことはありますが、少し前から耳の聞こえが悪くなってしまいました。そのため、わたしたちの声もときどき聞こえないことがあります、

「さつき何て言つたの?。」と、聞き返すことが多くなりました。

耳が聞こえにくいので、テレビを見る音も大きくて、けいたい電話の着しん音も聞こえないことがあるので、そういう時はわたしがおばあ

ちゃんのかたをたたいて教えてあげています。

おばあちゃんが聞き返すことが多くなると、わたしも同じことを何回も言わなくてはならないので、つかれてしまい、

「もういやだなあ。」

と、思っています。それがきっかけで、おばあちゃんとケンカになつてしまうこともあります。するとおばあちゃんは悲しい顔をしていました。

家族みんなで相だんして、ほちようきという耳の中に入れるきかいを買うことにしました。ほちようきは、耳の聞こえが悪い人に使う物でイヤホンみたいに小さくて、ほちようきを耳に入れると小さくて聞こえにくい音が聞こえるようになるそうです。

おばあちゃんはほちようきを買つても、さいしよは、「こんなのつけてやつぱりはずかしいな。」

と言って、せっかく買ったのにつけてくれませんでした。だけど、

「かみの毛で耳をかくせば見えなくなるから大じようぶだよ。」と教えると、少しづつはずかしがらずにつけてくれるようになりました。

今では、ほちようきはおばあちゃんの生活になくはならない、とても大切なものになりました。

わたしは、おばあちゃんの耳が聞こえにくいびよう氣が「早くなおつてほしいな。」

と思いましたが、おとしよになるとどんどん悪くなつてしまい、なおらないことを知りました。それを知った時はとても悲しかったです。だけどほちようきを使うことで、また前のおばあちゃんみたいに、たくさんお話ができることがとてもうれしいです。

わたしは大すきなおばあちゃんのおけんを通して、お年よりには耳元で、やさしく、ゆつくり、大きな声でお話することが大切だなあと思

いました。

これから、わたしのおじいちゃんやおばあちゃんも、耳や足など体が少しづつ悪くなつてしまふと思いますが、わたしが耳や足の悪いところのかわりになつて、大すきなおじいちゃんとおばあちゃんの生活を助けてあげたいと思います。

良 優

小学生低学年

作文の部

わたしのじいちゃん

東小学校3年 中本蒼菜^{なかもとせな}



わたしは、じいちゃんといっしょにくらしていました。

一年生の時、じいちゃんはびようき

がどんどんひどくなってベッドでよこになっていことがおおくなくていききました。

歩くのもたいへんになってきたりしていたので、ほうもんかんごの人にきてもらうことになりました。

じいちゃんはおふろがすきだったので、かんごしさんにおふろに入れてもらってました。

「きょうはかんごしさんくるのかい?。」

いつもいって、かんごしさんがくるのを、たのしみにまっていた。

おふろに入れないときは、あしゆであしをあらったりからだをふいたり、ごはんをたべさせたりわたしもおてつだいをしました。じいちゃん

はうれしそうに「おーきもちいー

ありがとうございます。」といってくれてわたしもおてつだいするのが、たのしかったです。

びょうきのことやしんばいなことがあるとうももんかんごの人にでんわしたりよるもきてくれたりたくさ

んのことをおしえてくれて「すごいな。」

と思いました。

いつもあかるくえがおでやさしくてじいちゃんのおせわをしてくれるかんごしさんが、

「すてきなしごとだな。」

と思いました。

さいごまでかんごしさんにたすけてもらってじいちゃんは家でなくなりました。

やさしいじいちゃんがだいすきだったので、ずっといっしょにいられてうれしかったです。「じいちゃん天国へいってもわたしをみまもっててね。」



最優秀

小学生高学年

作文の部

ボランティア活動を

通して

東小学校6年

只野^{ただの}弥南^{みなみ}



わたしは去年、栃木県足利市にあるこころみ学園のワインじょう造場ココ・ファーム・ワイナリーで行われた収穫祭にボランティアとして参加しました。こころみ学園とは、成人ずみの知的障害を持った人たちを支援している施設です。知的障害を持った人たちがぶどう畑でしゅうかくしたぶどうのワインを音楽を聞きながら楽しむのが収穫祭です。学園の人達が支援を受けるだけでなく、

ワイン作りを通して社会とつながっていると感じました。

行く前は正直、あまりノリ気ではありませんでした。でも実際に行ってみると、会場では学園の人達がピエロの服や着ぐるみを着てとても楽しそうにしていた、私も楽しくなりました。よく見てみると、彼らには介助者がついており、1人で行動するには難しそうに思いました。

介助者が学園生を助ける、それによって学園生が元気にぶどうを作り、ココ・ファーム・ワイナリーがワインを作ります。このワインをお客さんにはん売しています。学園生が介助を受けるだけでなく経済活動に参加しているように思いました。障害をもっている人でも社会にこうけんしていて、とても良いしくみだと思いました。

収穫祭は、お客さんにとっては、ココ・ファーム・ワイナリーのワインを楽しむイベントです。学園生にとっては、一年に一回おこづかいを

使って好きな物を食べれるイベントです。わたしはここで、ボランティアとしてパンを持って移動販売をしました。高校生の人や大人のボランティアの人達と一緒に売って歩きました。歩いていると色々な人が優しく接してくれ、沢山買ってくれました。沢山歩いて最終的には完売できました。とてもつかれましたがみんなとの楽しい思い出が作れて良かったです。学園生達もすごく楽しそうでした。

これまで、知的障害の人と関わったことが無かったけど、この収穫祭を通して関われたし、知的障害の人が社会と関われるしくみを知れて良い経験になりました。今年は、自分からボランティアに参加したいと思っています。



秀 優

小学生高学年

作文の部

「ふくし」が

教えてくれたこと

北小学校6年 菊^{きく} 愛里紗^{ありさ}



私は、学校の総合的な学習の時間で「ふくし」について学習をしました。最初、「ふくし」は自分とは、ほど遠いものだと思っていました。ですが、私のそんな考えを変えてくれ、また、みなさんに伝えたいことが三つあります。

一つ目は、目のみえない人や耳の聞こえない人たちのふれあいです。私は、自分の身の回りの人や耳の不自由な人がいないので障害

をもつ人と話すのには少し不安がありました。でも、そんな気持ちもすぐになくなりました。なぜかという、その人たちは、私たちの話をしっかりと聞いてくれ、それを手話など工夫しながら答えてくれたからです。目が見えない耳が聞こえないことで不便になったことがたくさんできたと思うのにそれをいつさい分からせないあたたかさがすごいと思いました。

二つ目は、車いす、ブラインドウォーク体験をしたことです。実際に手足が不自由な人の不便さや、目が見えない人のこわさを体験しました。クラスのみんなも私も一時的だったので、「楽しかった」「おもしろかった」と感じましたが、あの体験を一生行っていると考えると、とてもこわいと感じました。なので、改めて目が見える、手足が使えることとはとても運が良く、そして幸せなことだなと思いました。

三つ目は、総合発表で今までのこ

とをまとめ、発表したことについてです。グループに分かれ、それぞれのテーマについて調べて、分かったこと、考えたこと、オリジナルふくしアイテムを考案し、発表しました。私たちのグループは、「手話」について調べ、クラスみんなが、楽しくふくしについて学べるように、げきやクイズも交えながら発表を行いました。友達と協力して様々なことを調べ、まとめたことで、「ふくし」について楽しく学べ、また、そのことについて考え、生活に生かそうと考える機会が学習する前と後では比べものにならないくらいに増えました。

これらのことから、私が伝えたいことは、障害をもつ人も様々な工夫をして、私たちと同じように生活しているということです。なので、これから、ふつうの人と同じように困っていたら、声をかけたり、自分から助けにいつてみてください。私もこの三つの経験を生かし、さらに、

「ふくし」について、考えていきます。



日常生活で感動したこと

南小学校6年 永島琉楓 ながしまりゅうが



2年前の春、母が足首を骨折した。幸い入院はしなかったが足を固定され車の運転が禁止された。家中では松葉づえを使い非常に不便そうだった。コロナ禍で父もリモートワークの日が多く家の事は母に変わり父が行っていた。ほくもできるだけ協力した。

毎日安静にしていた母もたまには買い物に行きたいと言い家族で県外

のデパートに買い物に出かけた。駐車場に入る時に立っていた警備員さんに父が何か話していた。車を進め立体駐車場を登っていくと別の警備員さんが誘導してくれた。そこには

車いすマークが書かれておりその場所に車を停めた。車を止めると車いすを押した警備員さんが車に近づいてきた。父はお礼を言うとう母を車から降ろし車いすに乗せた。初めての車いすの母との買い物。ただ買い物するだけなのに、すでに三人の警備員さんが連携し母のために車いすを持ってきた。父はほくも何かしな

ければと思いい母のカバンを持つことにした。本当は車いすを押したかったが、駐車場のコンクリートは店内に入るまでとても押しにくく押すことができなかった。店内に入り色々なことに気付くことになる。例えばエレベーターの上下ボタン。車いすでも届く高さにもボタンがある。子供用ではなく車いすのお客様用だ。トイレも男女と別に車いすごと入れ

る大きなトイレがあった。店内は車いすでもゆとりがある通路や段差などもなくほくでも母の車いすを押すことができた。久しぶりの外出で母はとてうれしそうだった。

ほくは気付いたことがあった。エレベーターの無い地元のスーパーや2階建ての電気店なども段差や通路は結構広く確保している。ふ段は全く気にしてなかったが地元のスーパー入り口に車いすも用意していることに気が付いた。車いすマークの駐車場もあった。

父に聞くとハートビル法と交通バリアフリー法という法律を教えてください。どうやら、決まった大きさ以上の建物を建てる時や1日に決まった人数以上の人が利用するし設はこの法律も考えて計画しなければならぬ。そうする事によって様々なハシデキャップがある人でも快適に施設を使うことができる。父からこの話を聞いてほくは本当に素晴らしいと感動した。駅や空港などもその代

表例と聞いた。身近な所からあまり知らないし設までしつかり決まりがありはいりよされているから誰もが使いやすくなるのだと知った。法律と聞くととても難しく感じるが日常生活に置きかえたととても分かりやすく感じる事ができた。

今まで福しと聞くとお年寄りなどを思い浮かべていたが、自分の身の周りで起こっている日常にこそ福しがあることに気付いた。今回の経験で、ほくはほんの少しのやさしさと実行する少しの勇気で多くの人が笑顔で暮らせるようになる事を知ることができた。



最優秀

中学生

作文の部

「理解する」とは

北中学校3年 新島美桜 にいしま みお



「いらつしやいませ。」

これは先日、私が兄とショッピングモールに行ったときの話です。

「アイスカフェラテひとつ。」

何度も来ているこのお店。私はいつものように注文しました。ですが店員さんの反応がありません。聞こえなかったのかなと思い、もう一度注文しようとする、店員さんはこう書かれている紙を私にさしだしました。

「私は耳がきこえません。指さ

しでの注文をよろしくお願いします！」

私は店員さんの胸元についているふたつのバッジに気がつきました。

「Please face me」と書かれたバッジ、人差し指の立った手がふたつ書かれたバッジがついていました。私はびつくりしながらメニュー表を指でさし、ジェスチャーをしながら注文をしました。耳が聞こえなくても、私がした注文を一生懸命受けようとしている姿に、とても心を打たれました。

私は家に帰り、お店の人の胸元についていたバッジが気になり、調べてみることにしました。「Please face me」とは、「こちらを向ってください。」といった意味で、そのバッジは耳に障がいのある人と、そのパートナーが、「手」が描かれたバッジは「手話ができます。」という意味です。そこで私は、その店員さんは手話ができるのか、と初めて知りました。そこで、調べている際

に、こんな記事が目にとまりました。「障害者は不幸？差別や偏見にどう向き合うか。」

その記事には聴覚障害者に対する世の中からのイメージが書かれていました。私はそこに書かれていた言葉にゾッと寒気がしました。「生産性のない障害者を守ることはできないです。」「目障り、不愉快だ。」といった内容。体に不自由なところがあるだけで、生産性のない人間かのように言われてしまうのか、とそんなことを考える人がいる世の中にとってもショックを受けました。「障害者是不幸をつくることしかできない。」といった人に、私はもっと障がいのある人のことについて知ってほしいと思いました。私は、コーヒーショップで出会った店員さんを思い出し、あのお姉さんもあんなふうに使われてしまっているのかもしれないと思ったり、とても心が苦しくなりました。あのだいりさんのように、障がいをもっている人でも自分の特徴を

いかして働ける場所はあると私は思います。そんな場所をふやしていければいいと思います。

私は、障がいをもっている人でも生きやすい社会をつくるためには、障がい者に対する理解を深めることが大事だと思います。障がいのある人に対しての理解とは、障がいのある人は、何事も出来ない決めつけずに、その人にも出来ることや、その人にしか出来ないことを考えてあげることが「理解を深める」ことだと私は思います。また、「理解を深める」ことは、お姉さんがつけていたあの二つのバッジにもつながると思います。バッジのおかげで、私はあのお姉さんとコミュニケーションをとることができました。聴覚障がい者は外見ではとてもわかりにくいのです。この人は障害者だとひとくくりにせずに、手話でコミュニケーションをとる人なのか、筆談でコミュニケーションをとる人なのか、筆談でコミュニケーションをとる人なのか、など、その周囲の人はその人が必要

とするコミュニケーション方法を尊重するべきだと私は思います。「理解する」ことで全員が豊かに、そして幸せに暮らせる社会をつくっていくと考えます。みなさんも理解したその先の社会を見てみたいと思いませんか。



見た目だけでは わからない障がい

北中学校1年 横倉由唯よきくら ゆい



みなさんは、障がいを持つ人と聞いてどのようなイメージを思い浮かべますか。ほとんどの人が体が不自由な人のことを思い浮かべると思い

ます。でも、実際はそれだけではありません。見た目だけでは分からない障がいもあるのです。それは、知的障がいや発達障がいなどと呼ばれるものがあります。これらは脳の病気です。人と関わるのが苦手だったり、強いこだわりがあったりします。臨機応変に対応ができず、思い通りにいかないと大きな声を出して暴れてしまうこともあります。

私の弟は自閉スペクトラム症という発達障がいです。そのため、臨機応変にできず少し暴れてしまうと、周りの人が変な目で見てきたり、理解してもらえなかったりします。友達と、兄弟についての話になると、とても気まずい雰囲気になります。

今、弟は小学四年生で、支援学校という学校に通っています。支援学校とは、障がいをもっている人が通う学校のことです。その学校に弟はリュックサックで通っています。もちろんランドセルで通っている子もいますが、ランドセルに入りきれな

い荷物は手提げを使う必要があります。そのため、弟は忘れ物をしないように、たくさん入るリュックサックにしています。私の小さいときの夢は、弟と一緒にランドセルで登下校をしたり写真を撮ったりすることでした。その夢は叶いませんでしたが、弟にとって、忘れ物をしにくくなるので私は良いと思っています。

また、弟は外出中でも何か気になわないことがあるとあばれてしまうので、あまり外出をしたり旅行に行ったりできません。しかし、このことについて何かが違う気がしていました。弟が支援学校に行っているのは弟の個性です。友達と弟の話をしているときに気まづくなったり、外出ができないのは違うと思うようになりました。そして、何が違うのか考えてみました。それは、色々な人が発達障がいについてまだまだ知らない人が多いということです。発達障がいについて理解が深まれば気軽に外出したり、友達と心置きなく

話したりできるのではないかと思います。

弟は、障がいをもっているけど、私にとって世界にたった一人だけの大切な弟です。できないことが多いけれど何事も全力で頑張る姿は私の誇りです。

みなさんは、自分が障がい者というのを周りの人が見るだけで分かるヘルプマークを知っていますか。赤色のタグに、白の十字とハートのマークがあるデザインです。これは、障がいをもっているという個性の証です。外出のときに、このヘルプマークをつけていたのですが、やはり弟が暴れてしまうと、周囲の視線がこちらに注がれてしまいました。せっかくヘルプマークを付けているのに、もっと色々な人に知ってもらいたいと思います。また、私は発達障がいについてのポスターをたくさんつくったり、学校で学ぶ時間をつくって、発達障がいの特徴を知ってもらいたいと思っています。そして、五



年後、十年後には発達障がい者、その家族、見た目だけではわからない障がいをもつ人々が幸せに生きられるような世の中になってほしいです。

高齢の方のこと、分かって！

西中学校2年 平田しずく



「ねえ、ここはどこ？」祖母を連れて、家族旅行にいった時の深夜の時間の一言だった。

祖母は二年程前から認知症を発症していて、日に日に、聞いたことを何度も聞くようになっていった。周りもなんだかいらついている空気でも何度も聞いてしまう祖母に対してキ

レてしまう、といったことも多々あった。

でも私は祖母のいいところを知っている。例えば、私がふざけたら「私も！」と言って、一緒にやってくれるところや、私の知らない父の幼い時の話、祖母自身の幼い時の話をたくさん話してくれるところなど、私はどれも大好きだ。

ただ、何度も聞かれたり、祖母と祖母のペースで一緒に歩いていると、前の人との距離が生まれ、追いつけなくなったりしてしまうと、自分のどこかで「さっきも言ったよ。」や「もう少し早くしてほしい。」と思ってしまう自分がいた。

そんな時、「介護体験」というのが耳に入った。何か祖母の支えになればと思い、希望した。

そして当日の八月二日。その日で祖母に対して、どこか思ってしまったことがぐつがえされることになったのだ。

まず、学生さんが温かく出迎えて

くれた後、認知症対策として七文字くらいのをシャッフルし、この文字は何でしょうクイズをした。なかなか解くのに時間がかかって、「なるほど」となった。これなら、激しい運動でもないし、祖母と一緒にできることだろうと思った。

次に、重りを手首につけ、手には軍手をし、階段をのぼり、ものをよけ、小銭を拾い、階段を下り、貯金箱に入れ、軍手をした手で、ペットボトルを開ける、というコースで行った。手首、足首に重りがついて

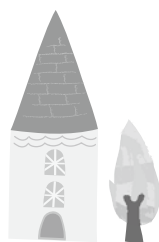
いるからなのか、歩くペースも通常より、遅く、何より、上り下りの階段が辛かった。重りと体重でいつも行ってしまうもおかしくはない状況だった。すると私は、「祖母もこんなかもしれない」、「こんなに大変だったんだ」と祖母に対する思いがこみ上げてきた。なぜもっとよりそえなかったのか、これからはもっと今以上に祖母によりそって支える

と決心した。

次はふうせんバレーボール。ふうせんを割らないためにテープで周りを固定して、バレーのようにパス・トスで続けるゲームだ。確かに、これなら割れないし、テープがはつてあることで少し重みができ、痛くない、やわらかいボールができ上がり、体を使うけれどこれなら座ってやることもできる、と思った。このゲームなら、幼い弟でも祖母でもできる、みんながけがなく、楽しいゲームができると感じた。ぜひ、今度、祖母を誘って、会話や楽しいと感じる機会になってほしいと思った。

今回、介護体験に行けて心から本当によかったと思う。すごく良い機会になったし、これからのことにも役立つ気がしたからだ。

みなさんもスマホの画面ではなく、周りのことに目を向けてみてはいかがでしょうか。



●審査員の紹介（敬称略・順不同）

岩瀬 寿夫（大泉町社会福祉協議会長）
前田 修（大泉町教育委員会事務局教育部教育指導課長）
竹田 淳一（大泉町内小学校長代表 北小学校長）
柿沼 和広（大泉町内中学校長代表 南中学校長）
須永 俊彦（大泉保育福祉専門学校長）
酒井 清（大泉町健康福祉部福祉課長）
中島 洋明（群馬県立大泉高等学校国語担当教諭）
秋谷 大紀（群馬県立西邑楽高等学校国語担当教諭）
鈴木 康弘（群馬県立西邑楽高等学校美術担当教諭）

第17回（令和5年度）

大泉町小中学生ふくし作文・ポスターコンクール入賞作品集

発行日 令和5年11月

発 行 社会福祉法人 大泉町社会福祉協議会
〒370-0523 邑楽郡大泉町吉田 2465 番地
電 話 0276-63-2294

《小学生低学年 ポスターの部》



優良
「みんなもってる
やさしいきもち」

大泉町立南小学校
きた りゅう き
1年 北 隆希 さん

《小学生高学年 ポスターの部》



優良
「みんなで支え合おう」

大泉町立西小学校
たか ぎ ゆ あ
5年 高木 結愛 さん

《中学生 ポスターの部》



優良
「支え合い笑顔をふやそう」

大泉町立西中学校
さとう あいり
1年 佐藤 愛梨 さん

